

# 令和 8 年度 施政方針

令和 8 年度一般会計をはじめ、各特別会計の当初予算及び関係諸議案のご審議をお願いするにあたり、私の市政運営に対する基本的な方針と、新年度における主要な施策の概要を申し上げ、議員各位、並びに市民の皆様のご理解とご協力を賜りたいと存じます。

## 1. 市政運営に対する基本的方針

本市を取り巻く環境は、人口減少や少子高齢化の進行、自然災害の激甚化に加え、物価高騰の影響、急速なデジタル化の進展など、様々な課題に直面しております。

こうした厳しい状況にあっても、私は、本市が持つ豊かな自然、歴史、文化などの貴重な資源を守り育て、次世代へと確実に継承していくことが責務だと考えております。そのためには、市民一人ひとりの命と健康を守り、誰もが安心して暮らせる環境を整えることが、自治体の最も基本的な役割であると認識しております。

市長に就任して以来、「子育て上手な常陸太田」「もっと住みたくなる常陸太田」「安心・安全なまち常陸太田」の実現を目指し、「少子化人口減少対策」、「人が輝くまちづくり」「魅力アップのまちづくり」「元気な産業づくり」「安心・安全なまちづくり」「行財政改革」の 6 つの柱を掲げ、各種施策を進めてまいりました。

また、まちづくりの基盤となる「東部土地区画整理事業」「市道 0139 号線整備事業」「新総合体育館整備事業」の 3 つのプロジェクトは順調に進んでおり、完成に向け着実に推進してまいります。

私自身、これまで多くの市民団体の会合などに積極的に出席し、市民の声を直接お聞きすることで、より良い市政運営を目指すためのご意見をいただいております。改めて、市民の皆様の温かい

ご支援、ふるさとへの深い愛情と活力あるまちづくりへの強い思いを感じ、これを反映すべく、さらなる努力を続けてまいります。

市政運営にあたりましては、将来世代に誇れるまちを創り上げるため、市民の皆様や民間事業者、そして行政が一体となって課題解決に向け取り組むとともに、主要施策においては、重点分野を「パッケージ化」し、関連施策を総合的に推進することにより、効率的かつ効果的に目標を達成してまいります。

ここで、これまでの重点政策における主な成果を申し上げさせていただきますと、まず、「少子化人口減少対策」については、市内に住宅を取得した子育て世帯や新婚家庭への助成金に、UIJ ターンへの加算額の拡充や、子どもが2人以上の家庭への新たな加算を実施したところ、申請件数が2月末時点で前年度を8件上回る46件となり、移住・定住が促進されました。

また、心の健康観察アプリを市立中学校全校に導入し、生徒一人ひとりの心や体調の変化を早期に把握することで、必要なサポートが迅速に行われる体制を整えました。

次に、「人が輝くまちづくり」では、健康増進の取組みとして、県のヘルスケアポイント事業の獲得ポイントに応じ、市のデジタル通貨ポイントを付与する「長生きじょうづる健康ポイント事業」を実施したところ、新たに441人の参加並びに300人を超える応募をいただき、幅広い世代の健康づくり活動の推進につなげたところでございます。

また、昨年10月から接種費用の無償化をしました带状疱疹ワクチン接種については、本年1月末現在で1,853人の方々に接種を受けていただき、その接種率は42.5%となっております。

次に、「魅力アップのまちづくり」では、本市の豊かな自然環境や歴史、文化、地域活動など、かけがえのない有形・無形の資産を内外

に積極的に情報発信し、認知度の向上と市民の地域への愛着や誇りの醸成を図るためシティプロモーションを推進したところ、市公式 Youtube 再生回数が、2月現在で前年同月比 40%増となりました。さらに、市公式インスタグラムを年度内に開設し、発信力の強化に努めてまいります。

次に、「元気な産業づくり」では、中小企業・小規模事業者の高齢化、後継者不足が懸念される中、市が業務委託する産業活性化コーディネーターとの連携による事業承継の相談業務を行うとともに、事業承継に関するアンケート調査に取り組みました。

農業関係の支援では、地域の特性を生かした農作物の高品質化として、「常陸秋そばブランド推進協議会」を設置し、専門家の意見等をいただきながら、都内の有名レストラン等での利用や販売に向けたストーリーの作成、今後の事業計画等に取り組んでいるところです。

新たな商品開発や6次産業化等への支援としては、一昨年のシン・いばらきメシ総選挙で入賞した「けんちんまん」について、ファミリーマートでの販売のほか、お土産として手にしていただけるよう今後の商品化を進めるとともに、市の特産品推進協議会については、各分野に精通した方々を新たに委嘱し、特産品認証更新 24 品目のうち、2 品目について、事業者と連携しながらパッケージデザインのリニューアル等を行ったところです。

次に、「安心・安全なまちづくり」では、市民や市民が所有する車両等を災害から守るための一時避難場所の確保として、宮の郷工業団地連絡協議会との災害協定締結、さらには、コンテナホテル事業者との災害協定締結により、災害時において、市民が安心して避難できる環境の確保に努めてまいりました。

また、災害対応の経験が少ない市の若手職員を対象に、避難所の

運営手法をはじめ、必要な知識・技術を習得する研修会を開催し、職員個々の対応能力の向上を図りました。

「行財政改革」では、電子申請等の推進による行政事務の効率化を進めるとともに、第三セクターについては、組織体制の効率化と機能強化を図るため統合に向けた調整に取り組み、来月1日の新組織設立に向け準備を進めております。

以上、各重点政策については、一定の成果が上がったものと認識しております。

この他にも、官民連携複合施設の工事着工や水道広域化に対する市の方針決定など、今後の市にとりまして大きな影響を及ぼす動きもございました。

引き続き、社会環境の変化に対応しながら諸課題の解決に全力で取り組み、元気で活力あふれる常陸太田を次の世代に確実につなぐことができるよう努めてまいります。

以上、令和7年度の主な実績と、今後の市政運営に向けた基本的考えを述べさせていただきました。

## 2. 新年度予算の概要

続きまして、令和8年度予算の概要について申し上げます。

新年度におきましては、「新総合体育館」や「市道0139号線」の整備など、大規模な事業を着実に進めるとともに、「官民連携複合施設」のオープンや市立小中学校等の給食費無償化、市立中学校の修学旅行費の無償化などを実施してまいります。これらは、本市が新たなステージに踏み出す一歩となるものであり、各種施策と合わせて着実に進めてまいります。

また、国の「物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金」を活用し、デジタル地域通貨によるプレミアム付商品券の発行に加え、上

水道及び簡易水道の基本料金3か月分を無償化することにより、エネルギー・食料品等価格の物価高騰の影響を受けている市民や事業者の経済的な負担を軽減してまいります。

### **(1) 少子化人口減少対策**

「少子化人口減少対策」につきましては、子育て世帯への支援として、子どもを安心して生み育てられるよう、経済的負担の軽減や子育て環境整備などにより多面的な支援、教育格差を生まない支援体制の構築を図ってまいります。

市立小中学校等の給食費については、国は本年4月から小学校において、給食費を支援する方針が示されておりますが、本市では国の基準額と学校給食に要する費用の差額分を負担してまいります。また、中学校においては、国に先行し、学校給食費を市で全額負担し、小学校・中学校ともに無償化を実施してまいります。

さらに、市立中学校の修学旅行費を全額市が負担することで、子育て世帯の経済的負担の軽減と市立学校の魅力向上を図ります。

英語教育の充実では、幼児期から英語に自然に親しむ環境を創出するため、幼稚園や認定こども園へのALTの派遣を拡充し、将来的な言語学習の基盤を築いてまいります。

また、幼児児童生徒数の減少及び学校施設の老朽化に対応するため、市立幼稚園は令和9年度統合に向けた調整を進めますとともに、市立小中学校は今後の在り方について検討をしてまいります。

子育て支援施設「じょうづるはうす」については、4月より新たな指定管理者による運営体制となりますが、子育て相談や保護者の交流の場、そして子どもたちが安心して遊べる場として、多くの皆様にご利用いただけるよう努めてまいります。

若者定住の促進としては、引き続き、空き家・空き地バンクの活用

や住宅取得助成等により移住・定住につなげるとともに、オンライン移住イベントの拡充や映画館での動画広告(シネアド)を通じて本市の暮らしや魅力を広く発信し、移住のきっかけづくりに取り組んでまいります。

東部地区をはじめ市内適地への企業誘致の促進により、新たな雇用の創出と買い物環境の改善を図るほか、起業・創業支援により市内就業を後押しすることで、市内定住の促進と市外への人口流出の抑制に努めてまいります。

妊娠・出産・子育てまでの切れ目ない支援としては、引き続き、不妊・不育治療費の助成を行うことに加え、結婚に対する意識の醸成を図るため、中学2年生を対象としたライフデザインセミナーを実施してまいります。

本年4月からは、保護者の就労要件に関わらず、生後6か月から満3歳未満の未就園児が、保育園等を利用できる「こども誰でも通園制度」が始まることから、受け入れ態勢を整備し子育て家庭の支援を強化してまいります。

また、妊婦の緊急時に産科医療機関への搬送をサポートする「マタニティ・サポート 119 事業」を実施し、安心して妊娠出産に臨むことができる環境を整えてまいります。

## **(2) 人が輝くまちづくり**

「人が輝くまちづくり」については、健康で活躍できる地域づくりとして、市民一人ひとりが活力を持って、豊かな生活を送ることができる地域づくりを目指してまいります。引き続き、健康寿命の延伸に向けたフレイル対策や、各種スポーツイベント等を開催し、市民の健康を支援してまいります。

地域で活躍する市民を応援することを目的に、新たに、じょうづ

るさん Pay を活用した「地域貢献ポイント事業」に取り組み、高齢者等のごみ出し困難者への支援として、町会への報奨金を交付するとともに、新たにその支援者に対し、地域貢献ポイントを付与いたします。また、「長生きじょうづるさん健康ポイント事業」については、より一層の普及・啓発を図り、利用者の拡大を進めてまいります。

プロスポーツ等を活用したまちづくりでは、各チームと連携したスポーツ教室等の開催や市イベントへの参加促進を図ってまいります。

新総合体育館整備については、建物上屋部分工事及び外構工事に着手してまいります。スポーツ振興課の「新体育館建設準備室」を「新総合体育館整備推進室」に名称変更し、令和 10 年度の供用開始に向け、誰もが利用しやすい施設機能と運営体制の構築を進めてまいります。また、大里ふれあい広場では、良好な照明環境を提供するため、野球場の LED 化改修工事を実施するとともに、長寿命化改修工事中のプールについては、6 月供用開始に向けて着実に進めてまいります。

带状疱疹ワクチン接種費用の助成については、無償化を継続し、接種対象者の負担軽減と接種率の向上に努めてまいります。

太田地域交流センター整備については、令和 10 年度供用開始に向け、9 年度までの 2 か年で建設工事を進めてまいります。

また、姉妹都市交流については、姉妹都市締結 10 周年を迎えました大分県臼杵市及び秋田市への市民交流団を派遣し、それぞれ両市との交流促進を図ってまいります。

### **（３）魅力アップのまちづくり**

「魅力アップのまちづくり」については、広報広聴課の「広報係」

を「シティプロモーション係」に名称変更し、タイムリーかつ効果的な情報発信を行い、市の認知度及び魅力度の向上を図るとともに、シビックプライドの醸成に取り組んでまいります。

様々な分野で活躍中の本市出身者やゆかりのある方々を「アンバサダー」として任命し、それぞれの SNS 等を通じて本市の魅力を内外に広く発信していただきます。併せて、市民インフルエンサーの育成を進め、市公式 SNS を活用した魅力の発信の充実に努めてまいります。

観光誘客に向けた情報発信では、新たなロケ適地の開拓と情報発信の強化を図るため、フィルムコミッションホームページを作成いたします。さらに、県フィルムコミッションとの連携によりロケ誘致の取り組みを推進するほか、観光誘客の促進につなげてまいります。

竜神峡エリアの活性化については、民間企業と連携し、新たなアクティビティの整備に向けた支援を行ってまいります。

カーボンニュートラルの推進では、「カーボンニュートラル基金」を活用し、環境問題について考える機会の提供とその大切さについて理解を深めることを目的に、親子で参加できる講演会を開催いたします。

#### **（４）元気な産業づくり**

「元気な産業づくり」については、東部土地区画整理事業用地への商業施設の誘致としては、6月に開業予定の民間事業者が整備する施設を借り上げ、書店、カフェ等市民要望の強い店舗を誘致することで、新たな雇用の場の創出や買い物環境の改善を図ります。また、当該地区においては、新たな町「まいづる町」が誕生することから、商業施設の魅力を更に情報発信し、イメージアップに繋げてま

います。

農林畜産業・商工業の振興については、引き続き、農林畜産業の担い手支援事業や中小企業ビジネスチャレンジ応援事業を実施し、産業の活性化と雇用環境の整備を図ってまいります。事業承継支援としては、市商工会や産業活性化コーディネーターと連携し、アンケート調査結果により課題の抽出等を行うとともに、関係機関等と連携を図り、事業者へのフォローアップに努めてまいります。

有害鳥獣対策としては、クマを含めた有害鳥獣による農作物等への被害を軽減し、安心して生活できる環境を保つため、狩猟免許取得及び更新費用を助成し、捕獲従事者の負担軽減と確保を図ってまいります。

農地の集積・集約等については、農地中間管理事業により営農の効率化を図り、引き続き、久米地区基盤整備事業を推進して、地域農業の担い手確保や生産性の向上に努めてまいります。

森林整備の推進では、森林環境譲与税を活用した新規林業就農者への補助により新たな担い手の確保に努めるとともに、林道の現況調査の実施や市民からの要望の多い竹粉碎機の貸し出しを2台に拡充いたします。

## **（５）安心・安全なまちづくり**

「安心・安全なまちづくり」については、災害に強いまちづくりとして、近年の激甚化・頻発化する自然災害に備え、市民の命と暮らしを守る防災・減災対策を実施してまいります。内水対策として、松栄町地内において排水ポンプ車を安全に活動させるための釜場の設計・整備工事を実施するとともに、集中豪雨等による浸水被害の多い山吹運動公園テニスコート横の市道 3257 号線の冠水対策として、釜場や流末となる源氏川の水路出口部へのフラップゲートの整備工

事を実施いたします。

また、国の「地域未来交付金」を活用し、災害時に避難所となります市立小・中学校体育館等に移動式エアコンを整備し、避難所環境の改善を図ってまいります。

自主防災体制の強化としては、自主防災組織が保有している防災資機材等の整備・修繕に係る費用に補助を行い、自主防災組織が主体的な活動を継続するための支援を行ってまいります。

道路整備の促進については、市民の生活環境改善や利便性の向上、通学路の安全確保を図るため、計画的に進めてまいります。特に、三次救急医療機関への救急搬送時間の短縮や通勤・通学環境の改善、東部地区への相互アクセス向上に繋がる、市道 0139 号線整備事業については、これまでの橋梁整備等に加え、新たにトンネル工事の継続費を設定し、令和 11 年度の完成に向け着実に進めてまいります。また、事業の重要性等について、工事進捗報告会やデジタルサイネージ等を活用し、市民への一層の周知と理解促進を図ってまいります。

持続可能な交通体系の確立のため、引き続き、予約型 A I 乗合タクシーの運行を実施するとともに、自動運転 E V バスについては、東部土地区画整理事業地内の一部区間でレベル 4 運行を開始し、さらに、官民連携複合施設を運行ルートに加えることにより、利便性の向上を図ってまいります。

上下水道については、人口減少による料金収入の減少や老朽化による更新費用の増加などの経営環境の変化に対応するため、計画的な整備や費用の抑制を行うとともに料金改定の検討を進めてまいります。

## (6) 行財政改革

最後に、「行財政改革」については、行財政の効率化と質の向上を図るため、引き続き、行政手続きの電子申請の普及によるデジタル化の推進や、行政情報アプリの運用により、行政情報窓口の一元化や市民の利便性の向上を図ってまいります。

第三セクターの統合については、「常陸太田産業振興株式会社」、「株式会社水府振興公社」、「一般財団法人里美ふるさと振興公社」の3つの第三セクターを「常陸太田産業振興株式会社」1つにすることで、公共施設の効率的・効果的な管理運営を図り、持続的な指定管理業務の執行を行ってまいります。新組織においては、地場産物の高品質化や6次産業化の推進、販路拡大に取り組み、オリジナル商品開発等、収益事業を強化し、自立した運営体制の確立を目指してまいります。

西山研修所については、3月末をもって閉鎖となりますが、引き続き、公共施設等総合管理計画に基づく施設の廃止、統廃合を着実に進めてまいります。

この他にも、マイナンバーカードについては、制度開始から10年が経過し、カードや電子証明書の更新による来庁者の増加が見込まれることから、対応する職員の増員及び申請サポート機器等を導入して、来庁者の待ち時間短縮を図ってまいります。

また、本庁舎東棟の空調整備の更新については、老朽化及び長寿命化計画に基づき、令和8年度から9年度の2か年で整備いたします。

複雑化・多様化する行政課題に対応していくには、職員一人ひとりの資質や能力の向上が不可欠です。先例に捉われることなく、進展する社会や市民ニーズに柔軟かつ機動的に対応できる職員の育成と職員の働く意欲が高まり、能力が最大限に発揮できる職場環境を整えてまいります。

以上、令和8年度の市政の運営にあたり、基本的方針と新年度予算の概要を申し上げます。

昨年5月に市民の皆様から市政運営の重責を担わせていただき、初めての予算編成となりました。人件費や物価高騰に伴う経常経費の増加により、例年以上に、目標を達成した事業や市民ニーズとマッチしていない事業の廃止、規模の縮小など、スクラップ・アンド・ビルドの考えを徹底し、将来にわたり持続可能な財政運営の確立に心がけました。

今後も、先達の方々が築いてきた歴史、文化を尊重しつつ、将来を見据えた持続的に発展できるまちづくりに取り組む覚悟であります。より多くの皆様に、「住みたい」「住んで良かった」「住み続けたい」と感じていただけるまちを目指し、愛する郷土の発展に向けて尽力してまいりますので、議員各位をはじめ、市民の皆様により一層のご理解と、ご協力を重ねてお願い申し上げます、年度頭初における所信といたします。

令和8年3月3日

常陸太田市長 藤 田 謙 二